

令和 2年度 事務事業評価シート (令和 1年度分)

(令和 2年 7月 作成)

1 事務事業の基本事項				整理番号	816000-01-03
事務事業名	A L I T お茶大学事業			担当部課	教育部 博物館
				電話番号	04-2934-7711 内線
総合計画 基本計画	施策の大綱	02	学びあいのまちづくり	実施期間	平成17年 ~ 年
	政策(節)	03	社会教育の充実		
	施策(項)	01	社会教育環境の充実	その他の計画	
予算事業名	お茶大学開催事業			予算事業番号	2234
事務分類	<input type="checkbox"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 自治事務のうち任意のもの <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input checked="" type="checkbox"/> サービス提供 <input type="checkbox"/> 施設整備 <input type="checkbox"/> 許認可事務 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 内部事務 <input type="checkbox"/> その他				
	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他 ()				
事業開始の 背景・経緯	当館はお茶の博物館として、茶関連の常設展や特別展、講座、茶会などを積極的に開催している。ただ、単独の講座として行った場合、興味のある人へPRが届きにくいといった問題があり、要望の多さに反比例して参加者が集まりにくかったため、PR効果を高めるために各種講座を集約した事業として企画した。また、地域の歴史や文化財に関する興味や関心も高く、博物館が調査研究した成果を広く一般に公開する場としても期待される。				

2 事務事業の目的・内容

対象	一般市民及び児童・生徒	実施の根拠 (法令・条例等)	博物館法、入間市博物館条例
目的 (もたらそうと する成果)	「お茶」に関する講座のみならず、「地域」の歴史や文化財に関する講座も充実させ、多様な市民ニーズに対応したバラエティに富んだカリキュラムを編成し、受講者数の増加を図る。また博物館が調査研究した成果を広く一般に公表することにより、当館の学術的深化を図る。さらに、「お茶」や「地域」に興味を持つ市民へ学習の場を提供し、受講生同士の交流を通じて生涯学習の深化を図ることを目的とする。		
全体の事業 内容	「お茶を楽しむ、地域を知る」をテーマに、「お茶」と「地域」を2本の柱として講座を実施する。「お茶」については、地場産業である狭山茶に関する講座はもちろん、茶に関する様々な講座を実施する。「地域」については、入間市の自然・歴史・文化財に関する講座を実施する。		

3 事務事業の実施状況と成果

令和 1年度の 実施内容	誰もが無料で受講できる公開講座を6課目(6日間)、年間受講生のみが有料で受講できる体験・見学講座を8課目(11日間)実施した。また、学芸員と一緒に調査研究を行う「研究生コース」を実施した。夏休みには、小中学生対象の「こどもお茶大学」を3講座開催した。							
区分	活動指標名	区分	単位	平成29年	平成30年	令和 1年	令和 2年	目標値の根拠・考え方 (前年度値の場合は「前年度実績」)
実施 状況	① 博物館セミナー「A L I T お茶大学」の申込者数	目標値又は前年度値	人	140	184	161	141	前年度実績
		実績値	人	184	161	141		
		達成率又は前年度比	%	131.43	87.5	87.58		
	② 夏休み・こどもお茶大学の講座参加者数	目標値又は前年度値	人	68	72	72	0	講座の募集定員を根拠とした。※令和2年度は新型コロナウイルスの影響で中止。
		実績値	人	82	75	80		
		達成率又は前年度比	%	120.59	104.17	111.11		
	③	目標値又は前年度値						
		実績値						
		達成率又は前年度比	%					
	④	目標値又は前年度値						
		実績値						
		達成率又は前年度比	%					
区分	成果指標名	区分	単位	平成29年	平成30年	令和 1年	令和 2年	目標値の根拠・考え方 (前年度値の場合は「前年度実績」)
成果	① 博物館セミナー「A L I T お茶大学」の参加者のべ数	目標値又は前年度値	人	1,019	1,341	980	220	前年度実績。 ※令和2年度は新型コロナウイルスの影響で事業縮小。
		実績値	人	1,341	980	805		
		達成率又は前年度比	%	131.6	73.08	82.14		
	② 博物館セミナー「A L I T お茶大学」の受講者満足度	目標値又は前年度値	%	70	92.3	94	93	前年度実績 (H29までの成果指標は修了者数)
		実績値	%	49	94	93		
		達成率又は前年度比	%	70	101.84	98.94		

無印は実績値の増大によって達成率が向上するもの
 ※印は実績値の減少によって達成率が向上するもの

4 事業費

区 分			平成29年	平成30年	令和 1年	令和 2年	
経 費	事業費	当初予算額	498 千円	524 千円	511 千円	532 千円	
		決算(見込)額 ①	475 千円	471 千円	382 千円		
	人件費	従 事 職員数	一般職・労務職	0.45 人	0.49 人	0.5 人	
			嘱託・再任用	0.2 人	0.13 人	0.2 人	
			パート等	0.03 人	0 人	0 人	
		人 件 費 ②	4,789 千円	4,969 千円	5,048 千円		
		総 事 業 費 ③=①+②	5,264 千円	5,440 千円	5,430 千円		
		国・県支出金 ④	0 千円	0 千円	0 千円		
		その他特定財源 ⑤	123 千円	92 千円	95 千円		
		特 定 財 源 ⑥=④+⑤	123 千円	92 千円	95 千円		
	入間市年間負担額 ③-⑥	5,141 千円	5,348 千円	5,335 千円			
効率性 指 標	指標名	A L I T お茶大学講座 ⑦	1,341 人	980 人	805 人		
	コスト	講座参加者数1人当た ③÷⑦	3,925 円	5,551 円	6,745 円		
備考							

5 事務事業の評価

◆ 1次評価

個 別 評 価	必 要 性	有 効 性	効 率 性
	<input type="checkbox"/> 必要不可欠 <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い	<input checked="" type="checkbox"/> 大変有効である <input type="checkbox"/> 有効である <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> あまり有効でない <input type="checkbox"/> 有効でない	<input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> やや向上 <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> やや悪化 <input type="checkbox"/> 悪化
総 合 的 評 価	評 価		今 後 の 方 向 性
	講座の運営を指定管理者との共同事業としたことにより、受付業務や出欠管理等事務的な業務の効率が一層向上した。受講生の満足度も高く、充実した講座を実施できた。一方で、研究生コースの活動については、担当学芸員が他の事業との重複で業務負担量が大きくなりすぎたため十分な指導ができず、調査研究の成果が得られなかった。		<input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr/> <input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 完了・終了
改 善 課 題	令和 1年度の取り組み課題		改 善 の 評 価
	指定管理者導入のメリットを活かして、講座の運営や事務の効率化を目指す。引き続き、初心者とベテラン双方のニーズに応えるカリキュラムを工夫し、新規受講者の獲得とマンネリ化防止に努める。また、研究生コースの充実により成果循環型の講座運営を軌道に乗せる。		
	令和 2年度の取り組み課題		<input type="checkbox"/> 改善できた <input checked="" type="checkbox"/> やや改善できた <input type="checkbox"/> 改善できなかった
	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、多くの講座が中止となった。また、実施予定の講座についても、参加募集人数を大幅に縮小せざるを得なかった。年間コースや研究生コースの活動も休止となった。感染症拡大を防止する観点から、これまでの実施方法の見直しが必要である。		
令和 3年度の取り組み課題			
令和2年度に中止・延期となった講座について、感染拡大を防止しながら実施の方法を探る。活動休止中の研究生コースについても、受講生が主体となった調査研究や講座の運営を目指す。			

◆ 2次評価

総 合 的 評 価	今 後 の 方 向 性	具 体 的 内 容
	<input type="checkbox"/> 充実 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr/> <input type="checkbox"/> 廃止・休止	受講者満足度が高く、市民ニーズにあった事業が計画・実施できている点や、受講生が受講した成果を次の講座に活かすといった工夫が行われている点は評価できる。継続にあたっては、常に市民ニーズを把握し、評価検証をしながら、効果的で効率的な事業への見直しを維持する必要がある。特に、受益者負担の適正化について取り組む必要がある。また、市外からの参加者を増やすことで、シティセールスにつながる取り組みを期待する。